

便検体の希釈操作法について

【背景】

当該製品の添付文書の操作上の注意6)には「糞便量が過剰な場合、又は、粘性が強い場合、検体を生理食塩水または検体希釈液で2～3倍程度に希釈を行ってから、検査を行ってください。（希釈した検体を用いる場合も本添付文書に記載した検体滴下量を滴下してください。）」と記載しておりますが、よりご理解頂くために、下記に希釈法の詳細を補足致します。

【希釈操作法の補足】

試料が流れない場合、新しく便検体を生理食塩水または検体希釈液で2～3倍に希釈し、それを検体希釈液に懸濁して再試験をお願いいたします。

希釈法A

- ①調製した試料溶液を検体希釈液で等量混合します。
- ②以降は添付文書にしたがい、操作をお願いいたします。

※試薬濃度が変わってしまうため、試料溶液（便検体を懸濁した希釈液）を生理食塩水で希釈し、試験することはできません。

希釈法B

- ①綿棒に取った新しい便検体（200mg以上）を等量の生理食塩水または検体希釈液に懸濁します。
- ②その約50 μ Lを綿棒で検体希釈液に懸濁します。
- ③以降は添付文書にしたがい、操作をお願いいたします。

※上記の希釈法で展開しない場合は生理食塩水または検体希釈液の液量を検体量の2倍に増やし、試験を実施下さるようお願い申し上げます。

【GEイムノクロマトCD-GDH/TOX「ニッスイ」試験方法】

STEP1 試料調整
検体希釈液チューブのアルミシールをはがし、キット付属の綿棒で採取した検体（糞便）を入れ懸濁する。また、テストプレートアルミパウチ袋に入れたまま常温に戻し、使用前に取り出します。

STEP2 試料滴下
調製した試料溶液（チューブ）に試料ろ過フィルターを装着し、テストプレートに3滴滴下する。
簡単操作で 試薬の入れ忘れなし!!

STEP3 迅速判定
試料溶液滴下の20分後、速やかに判定部に現れる赤紫色のラインを目視判定します。

【陽性例】		【陰性例】
抗原陽性	抗原/毒素陽性	
C T G	C T G	C T G

0 20分

日水製薬株式会社

〒110-8736 東京都台東区上野3-24-6
URL : <https://www.nissui-pharm.co.jp>

お問合わせ先：カスタマーサポート Tel.03 (5846) 5707

Next
TechVision!
Nissui Pharma.